

# 2024年シーズンのシナジス投与スケジュールに関する勧奨

(追補版)

2024年03月13日

日本小児科学会  
神奈川県地方会 会員 各位

日本小児科学会神奈川県地方会感染症小委員会  
清水 博之、勝田 友博、今川 智之  
日本小児科学会神奈川県地方会幹事代表  
伊藤 秀一

平素より地方会の運営にご協力いただきましてありがとうございます。先般の2024年1月、神奈川県地方会感染症小委員会より2024年シーズンのシナジス投与開始時期の勧奨をすでに通知させていただいたところです。神奈川県では2020年はコロナ禍における感染対策意識の向上により流行しませんでした。2021年は過去最大の流行を夏に経験しました。そして2022年、2023年とも春から夏にかけて流行のピークが見られました。以上の疫学を踏まえて2024年シーズンも昨年と同時期の流行開始を想定し、4月から11月を標準投与期間(概ね8回)として勧奨させていただきました。

しかしながら、定点報告数が第8週から第9週にかけて各地で増加に転じています(全県0.10→0.16、県域0.07→0.22)。周辺の都県でも増加している地域があり、県内でもさらに増加する可能性があります。重症RSV感染症を予防するためには、流行が始まる前にシナジス投与を開始し、流行期間中は抗体を十分に維持する必要があります。つきましては、各地域の流行状況、児の重症化リスクなどを鑑み、1ヵ月前倒して3月から概ね8回を標準的なパリビズマブ投与期間とすることも選択肢であることを追補させていただきます。準備が間に合わない、周辺地域のRSV流行がない等の理由で、当初の予定どおり4月投与開始でも構いません。いずれの場合であっても、今シーズン1回目の時点で適応の有無をしっかりとご確認ください。

今シーズンを3月開始あるいは4月開始のいずれを選択するにせよ、その前シーズンから連続で投与する場合は「今シーズン1回目」と記載してください。(記載が無く連続投与した場合、適応の検討をしていないと判断される可能性があります。)

今シーズンから初めて投与する場合、投与回数は概ね8回ですので3月開始なら10月まで、4月開始なら11月までが詳記不要での投与が可能です。

2シーズン目の場合も、3月開始あるいは4月開始のいずれを選択するにせよ、その月にシナジス適応をご判断いただき投与開始を検討してください。

上記の標準的な投与期間(3月～10月または4月～11月)以外での投与は、地域での流行状況や児の重症化リスクを勘案し、症例毎に投与の妥当性を判断し、その理由等に関するコメントもしくは症状詳記の記載をお願いします。

海外では半減期の長い抗RSウイルスヒトモノクローナル抗体製剤であるnirsevimabの流通が開始されており、国内においても2023年2月に製薬メーカーから製造販売承認申請が提出されていますが、国内では未承認であり安定流通にも一定の時間を要する見込みであることから、今シーズンは例年通りシナジス(palivizumab)の使用を継続することを推奨します。

また神奈川県での方策の効果を評価することを目的として、後日RSV入院実態調査(アンケート調査)をおこなう予定です。結果は地方会でも報告させていただきますので、是非ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

併せて、ご参考までにレセプト記載の要綱として注意点を下記に示します。

- 標準的な投与期間(3月～10月または4月～11月)以外での投与は、流行状況や重症化リスクに応じて投与の妥当性を判断し、投与理由のコメントもしくは症状詳記を必ず記載のうえ請求してください。
- 初回投与時に適応であれば、そのシーズン終了まで(概ね8回)は継続して月1回の投与は認められますが、毎月のレセプトには必ず初回投与日とその日の月齢の記載を徹底してください。
- 毎月のレセプトに必ず記載していただきたい事項
  - ✓ 適応症名
  - ✓ 初回投与日および初回投与日の月齢
  - ✓ 今回投与日
  - ✓ 通算投与回数
  - ✓ 投与量(シナジス1回投与量 体重(kg)×15 mg/kg÷100 mg/mL)
  - ✓ 体重

<この件に関するお問い合わせ先>

日本小児科学会神奈川県地方会 感染症小委員会

清水博之 hiroyuki@yokohama-cu.ac.jp

勝田友博 katsuta-7-@marianna-u.ac.jp

今川智之 timagawa@gmail.com